

## 研究活動報告

### 2026年韓国生活時間調査学術会議

令和8年5月8日、韓国国家データ処の主催により、「2026年韓国生活時間調査学術会議」が、韓国・ソウル市内にある The Plaza ホテルにて開催された。韓国国家データ処の国民時間移転勘定 (National Time Transfer Accounts: NTTA) 作成チームからの依頼により、当研究所より福田節也・企画部第4室長が参加し、「生活時間調査を用いたサテライト勘定の発展と適用及び将来に向けた議論」と題するセッションで、以下の研究発表及び討論を行った。

Fukuda, S. “National Time Transfer Accounts in Japan: Measuring Intergenerational Transfers of Unpaid Work.”

本研究会議では、韓国における直近の生活時間調査である2024年調査データを用いた分析を中心に、韓国国内の研究者や統計局職員から報告が寄せられた。また、基調講演では、国際生活時間学会 (International Association for Time Use Research) 現副会長の Ki-Soo Eun 教授並びに同学会元会長の Ignace Glorieux 教授が登壇し、韓国やヨーロッパの生活時間調査の動向や調査手法の変遷、分析結果等についての報告が行われた。また、長らくヨーロッパでは実施されていなかった生活時間調査が今年・来年を目途に数か国で実施予定であるとの情報は有益であった。韓国における生活時間研究の官民を挙げた取り組みを垣間見る貴重な機会となった。

(福田節也 記)

### ヨーロッパ人口学会2026年大会

令和8年6月3日(水)～6日(土)にかけて、ヨーロッパ人口学会2026年大会 (European Population Conference 2026: EPC2026) がイタリア・ボローニャにて開催された。同大会は、1年おきに開催される人口学分野における主要な国際会議の一つであり、世界各国の研究者および関連機関の専門家が参加する。本会議では、人口動向、家族、労働、市場、健康、高齢化など多岐にわたるテーマについて最新の研究成果が報告され、国際的な学術交流が行われた。

本研究所からは、人口構造研究部・菅主太室長が韓国保健社会研究院 (KIHASA) の曹 成虎 (チョ・ソンホ) 博士と共同で以下のポスター報告を行った。

Suga, K. and S. Cho. “Marriage Squeezes in Korean and Japanese Regions”

また、企画部・福田節也室長は、本会議に先立ち開催される EAPS (European Association for Population Studies) ワーキンググループ Sustainable Ageing 主催によるサイドミーティングにおいて、以下の報告を行った。

Fukuda, S., E. Hertog, R. Matsukura, N. Nagase. “When Housework Gets Automated: Implications for Labour Supply”

例年よりも日本からの参加者が少ない印象であったが、コロナ禍以降の出生力の低下をはじめヨーロッパにおける最先端の研究動向に触れる貴重な機会となった。

(福田節也 記)

## 日本人口学会第78回大会

日本人口学会第78回大会は、2026年6月6日(土)～6月7日(日)の2日間、立正大学(品川キャンパス(東京都))を開催校・共催として、対面形式で開催された。155名が参加し、活発な発表と討論が行われた。

第1日には学会賞授賞式およびシンポジウム「『出生抑制』(少子化)を考える——マルサス『人口論』第6版(1826年)刊行200周年にあたって」が行われ、2日目にははじめての試みである高校生によるポスターセッションが開催された。また大会前日には「地方行政のためのGISチュートリアルセミナー：交通インフラとGIS」が開催された。大会プログラムは以下の通りである。

大会前日 2026年6月5日(金)

第10回「地方行政のためのGISチュートリアルセミナー「交通インフラとGIS」

<組織者> 小池司朗(中央大学)・井上孝(青山学院大学)

<座長> 小西純(統計情報研究開発センター)

- 1) 川瀬正樹(広島修道大学)「無料で使えるGISを用いて地方公共交通のあり方を考える方法」
- 2) 小池司朗(中央大学)「路面電車沿線における人口変化の分析」
- 3) 丁兆文(青山学院大学)「ArcGISにおけるロケーションアロケーション分析の基礎—交通インフラを考慮した施設配置の検討—」
- 4) 長谷川普一(新潟市)「ネットワークアナリストを用いた公共交通利便度評価」

第1日 2026年6月6日(土)

### Panel Session 1 Time Use as a Lens: Comparative Analysis of Life Course, Social Roles, and Well-being in China and Japan (オンライン開催)

Organizer & Chair: Yalei Zhai (Kyoto University)

Discussant: Reiko Hayashi (National Institute of Population and Social Security Research)

- 1) Yueping Song, Wang Zaiyue, Shi Zhixin, Zhang Guanlin (Renmin University of China), How Does Overtime Work Affect Fertility Intention: From the Perspective of Family Time Collaboration
- 2) Ting Li (Renmin University of China), A Comparative Study on the Burden of Family Care for the Older People in China and Japan: Key Findings Based on Time Use Survey Data
- 3) Yongai Jin (Renmin University of China), Wenbo Hu (The University of Hong Kong), Tao Liu (Peking University), Working Hours and Fertility Intention: A Comparative Study in China and Japan
- 4) Lidan Lyu (Renmin University of China), Comparative Study of School-Age Children's Time Use in China and Japan